

Jump Rope Festa 2020 ルール

①撮影方法

- ・撮影場所(屋内外可)、撮影端末を各自で用意し実施する。
- ・カメラは固定し、スマートフォンやタブレットを使用する場合、必ず横向きで撮影すること。
- ・撮影する際のカメラの位置(自由演技)
「正面」より演技全体が映るように撮影すること。

②注意事項

- ・スピードの撮影は、JRSF 指定のコールを使用し、音源も十分に聞こえるよう撮影すること。
- ・撮影した映像に特殊効果(早送り、映像特殊効果、音響編集 等)の編集を禁止する。
- ・撮影機材に再生している音源が十分に聞こえるよう撮影すること。自由演技の場合、映像の音源が聞こえない場合でも、ジャッジは提出された映像で行う。
- ・提出できる映像は、各種目 1 回のみとし、提出後の再提出は認めない。

③審査対象外となる映像

- ・JRSF 指定の音源と異なる音源を使用している場合(スピードに関して)。
- ・撮影映像に編集が施されている場合。

■種目

① 30 秒かけあしとび

- ・ 内容
30 秒間でかけ足とびを何回跳べるかを競う。右足が地面についた回数を記録とする。FISAC または ARSF の国際大会で日本代表としてかけあしとび種目(個人戦、団体戦含む)に出場したことがある人はこの種目に参加することはできない。
- ・ コール
開始合図「Judges ready? Athletes ready? Set」の次のブザー音
途中経過「10. 20.」
終了合図「ブザー音」
- ・ 不正スタート(フライング)
「Set」から開始のブザーまでは身体もロープも動かさないこと。
ブザー前にロープを回し始めたり、明らかにジャンプに関連するような動きがあったりした場合には、不正スタートとなり、合計跳躍回数から 5 回をマイナスする。

② 30 秒リリース

- ・ 内容
空中でロープを一回転以上回転させ、リリースキャッチをして前とびをするまでの回数を競う。グリップを取れず落としてしまった場合、落ちたグリップを地面から拾った場合、あるいは前とびをしなかった場合など、失敗とみなされたものは回数に含まれない。
- ・ コール
開始合図「Judges ready? Athletes ready? Set」の次のブザー音
途中経過「10. 20.」
終了合図「Stop.」
- ・ 不正スタート(フライング)
30 秒かけあしとびの不正スタートと同様。

③ 二重とび(時間無制限)

- ・ 内容
時間無制限で前回しの二重とびを引っかかるもしくはやめるまでに跳んだ回数を競う。
- ・ コール
なし。好きなタイミングで開始して良い。
- ・ その他
二重とびを始める前に、予備跳躍を行っても良い。

④ 三重とび(時間無制限)

- ・ 内容
時間無制限で前回しの三重とびを引っかかるもしくはやめるまでに跳んだ回数を競う。
- ・ コール
なし。好きなタイミングで開始してよい。
- ・ その他
三重とびを始める前に、予備跳躍を行っても良い。

⑤ 30 秒おしりとび

・ 内容

30 秒間でおしりとびが何回跳べるかを競う。ロープを半分に折り、右手(左手)で持ち反時計(時計)周りに縄を回す。ロープの先端と持ち手の間がおしりの下を通った回数をカウントする。詳しくは動画を参照。

・ コール

開始合図「Judges ready? Athletes ready? Set」の次のブザー音

途中経過「10. 20.」

終了合図「Stop.」

・ 不正スタート(フライング)

30 秒かけあしとびの不正スタートと同様。

⑥ 30 秒クロスクロス

・ 内容

30 秒間で前回しのクロスクロスが何回跳べるかを競う。交差跳びの手の上下が入れ替わった回数をカウントする。詳しくは動画を参照。

・ コール

開始合図「Judges ready? Athletes ready? Set」の次のブザー音

途中経過「10. 20.」

終了合図「Stop.」

・ 不正スタート(フライング)

30 秒かけあしとびの不正スタートと同様。

⑦ 自由演技

60 秒以内で自由にシングルロープ、ダブルダッチ、2in1、チャイニーズホイールなどの演技をし、技術力や構成力を競う。人数制限なし。

各項目 10 点満点、計 50 点満点で評価。

評価項目は以下の 5 つ。

✓ 音楽との調和

曲のリズムやアクセントを上手に使えているかを評価。演技全体で音楽を有効に使えているかを評価する。音がない場合はゼロ点。

✓ 技術力

技の難易度、技術的な熟練度、身体の動かし方や滑らかさを評価。技レベルだけでなく、技術的な高さと余裕を評価する。

✓ 表現力

カメラ越しのアピール力、目線、技の力強さを評価。技に集中するだけでなく、カメラ越しで観客を楽しませようとする意識や動きへのこだわりを評価する。

✓ 構成力

演技のツカミ、盛り上がり、ポーズなどの組み立て方を評価。単調にならずに技を組み合わせられているかを評価する。

✓ オリジナリティ

他の選手との相対的な違い、個性を評価。技の難易度に限らず、新しいトリックや新たな動きなどを評価する。

※危険な演技

ジャッジの半数が怪我をする恐れがあり、危険な技をしたと判定した場合は失格となる

※演技中の服装や装飾品

演技の支障のない範囲での衣装は認める。ただし医療用を除くアクセサリは禁止